

海光社製“ラインウェイト”と
カーテンとの関連について

委 託 研 究 報 告 書

1 9 7 3 . 1 0 . 2 9

林 玲 子

序

我国のインテリアの隆盛は、今日更に多様化と個性化の時代を迎えその高級化への指向は、室内にカーテンをいかに美しく演出するかという問題を大きくクローズアップしている。このことは既製カーテンの高級化、室内に合ったカーテンスタイルへの関心のたかまりにもそれを見ることが出来る。カーテンの材質、色、柄、形だけでは解決出来ないこの問題は、製縫技術の向上と適切な附属品の普及にかかっている。

カーテンにすっきりした仕上りを与え、美しいブリーツを強調するカーテン用のウェイトが注目されてきたが、海光社の“ラインウェイト”についてみると、凹凸のない線状の形態、均一の重量、ループ性に対する適切な配慮等に製品としての優秀性がみられる。カーテンの装飾性はブリーツの美しさのみでなく、裾線の優美な広がりにもある。これまで市販されていた他社の太く凹凸のあるものに比して、細い鎖状のこのウェイトは、すぐれた装飾効果をあげるだけでなく、摩耗による裾の損傷を少なくし、カーテンの寿命を縮めることがほとんど無いといえる。

欧米に於いて、すでに一般化しているカーテン用のウェイトは、我国では最近やっと普及化へのきざしがみられる。しかし、まだまだその関心は低く、関係各業界の認識の高まりと共に、積極的な一般消費者へのウェイト使用の提案の必要性を痛感する。

“ラインウエイト”の委託研究内容

I	ラインウエイトの重量とカーテンの適材	1
II	ラインウエイト使用の各カーテンの仕立て方	4
III	ラインウエイト品質テスト及びカーテンにおよぼす影響	18
	• 収縮（洗濯，熱）	
	• 摩耗	
	• 強度	
	• 重量によるカーテンの伸び	

試作カーテンリスト

№	種類	素材	丈 mm	幅 mm	裾折幅mm	ヒダ	ウエイト g/m
1	ドレープ (赤横縞)	ポリエステル 69% キュブラ 18% レーヨン 13%	2250	1200	50	三ツヒダ 3倍	70
2	ドレープ (青)	レーヨン 100%	2250	1200	100	三ツヒダ 3倍	70
3	ケースメント (ベージュ)	レーヨン 70% 麻 30%	2200	1000	30	三ツヒダ 3倍	50
4	レース (アイボリー)		2200	1000	30	三ツヒダ 3倍	30
5	ドレープ (茶)	綿 100%	2350	2000	100	三ツヒダ 2.5倍	70
6	ケースメント (黄)	ポリクラール 100%	2325	2000	まきこみ ¹⁵	三ツヒダ 3倍	50
7	レース (白)	ポリエステル 100%	2325	2000	まきこみ ¹⁵	箱ヒダ 3倍	50
8	プリントブラインド型 (白黒)	綿 100%	2100	1000	40	無し	150
9	ケースメントブラインド型 (青緑)		2100	1000	40	無し	150
10	アルミ転写ドレープ (抹茶)	タテ:ポリエステル100% ヨコ:レーヨン 80% 絹 20%	2350	2000	100	三ツヒダ 2.5倍	70

I ラインウエイトの重量とカーテンの適材

カーテンに対するラインウエイトの適正重量はカーテンの素材，種類，織・編組織，厚み，丈，形等様々な条件によってきまる。

• 素 材

繊維の種類により，ドレープ性の良いものと，やゝ悪いものがある。

絹，ナイロン，レーヨン等はブリーツが最も出やすい繊維である。ポリエステルはしなやかな張りのある美しいブリーツが出るが，レーヨン使用のものよりウエイトが重目の方がよい。アクリルはレーヨンより比重が軽いので，同じく重目のウエイト使用が望ましい。ガラス繊維もドレープ性がよいが，折り曲げ，摩耗に弱いので，ウエイトの重量はこの点を考慮する必要がある。ポリクラー，綿，麻はものにより少し固い張りをもつので，特に厚手のカーテンには重目のウエイトを使用する方が効果的である。

一般にしなやかで比重の重い繊維程ドレープ性が良い。したがってカーテン自体の重量がその面積，厚みに対して軽いときは，なるべく重目のウエイト使用が望ましい。

• 組 織

繊維の種類にもよるが，薄手でやゝ打ちこみの荒いものの方がブリーツが出やすい。但し組織の経糸が細く，緯糸が太い方がブリーツの形が美しい。

糸が太く，打ちこみの強いもの程，こわばりがあるので重いウエイトを使用する。

• 丈

カーテン丈が長くなる程重目のウエイト使用が効果的である。レーヨン

は、丈が長くなっても標準通りの使用で十分な場合が多い。

カーテンの種類とウェイトの重量の関係は次のようになる。

① ウェイト30 (30g/m)

• 主な用途

レース、ケースメントタイプレース

極薄手織物(紗、ジョーゼット、羽二重等)

• 使用上の注意

ウェイト30を使用して効果があがるのは、カーテン丈1700mm以下の場合である。2000mm以上の時はウェイト50の使用が望ましい。但し薄物のチリチリカーテンの裾には丈が2000mm以上の場合でもウェイト30で充分である。(カーテン全体に別の重りがつくので。)

薄手で透視性のあるものにウェイト30を使用する時は、裾は編みこみ又はまきこみ仕立の細い折り幅の方が、ブリーツの広がりも美しく、視覚的な点でも効果的である。

② ウェイト50

• 主な用途

レース、ケースメントタイプレース、ケースメント、薄手ドレープ(ジャガード織、シャンタン、ブロード、タッサブロード、ポプリン、サテン等)

• 使用上の注意

カーテン丈の長いもの(2000mm以上)には、ウェイト70又はそれ以上の重量が望ましい。但しレーヨン系の、ケースメントや薄手ドレープはウェイト50の使用で充分である。

透視性，透光性のある軽やかなものには，まきこみ仕立にし，裾の折幅を細く仕上げた方が，ブリーツの出が美しく見える。

③ ウェイト 70

• 主な用途

ケースメント，厚手ケースメントタイプドレープ，やや厚手ドレープ（ジャガード織，緞子，サーヂベルベット，シークスキン，サテン，タッサーフロード，トリコット等）

暗幕

• 使用上の注意

丈の長いもの，ブリーツの出の悪いものには， 100 g/m 以上のウェイト使用を考慮する必要がある。但しレーヨン等はウェイト70で充分である。

④ その他（ 100 g/m ， 150 g/m ， 200 g/m ， 300 g/m ）

• 主な用途

厚手ドレープ（ジャガード織，綴織，緞子，ベルベット，ツイード，モケット，綿ピロード，キャンバス，ヘッジャンクロス等。）

暗幕，緞帳，ブラインド型カーテン

チリチリカーテンの重り

• 使用上の注意

風によるまくれを特に防ぎたい時は， 100 g/m 以上の方が効果がある。空調室関係には $150\text{ g/m} \sim 300\text{ g/m}$ を使用する。

緞帳については，薄手のもので，両開き又は片開きのものには，ウェイトとしてこれ等のものは最適である。厚い綴織の上下開閉の

ものには、ウエイトの使用よりも鉄パイプの重りの方が、緞帳全体に安定感が出る。

ブラインド型カーテンの裾に木棒又は鉄パイプの代りにこれ等のウエイトを重りとして使用すれば、歩行の障害とならず、不時の怪俄を防ぐメリットがある。厚手で織りこみの強いものには 150g/m を袋状に被覆し、裾に吊りこむようにとりつける。薄手のものやケースメントには 100g/m か 120g/m 位が良い。

チリチリカーテンの重りに現在鉄パイプが使われているが、代りにこれ等重いウエイトの使用が充分考えられる。ウエイトの重量はカーテンの厚さ、全体の面積によって、 150g/m から 300g/m の間から最適なものを選ぶ。

アルミ転写したドレープはこわばりがあるので、 100g/m ウエイトの使用が適切である。

Ⅱ ラインウエイト使用の各カーテンの仕立て方

まずカーテンそのものにすっきりした美しい外観を保つ配慮がなされていないければ、ウエイト使用の効果も半減する。

1 美しいブリーツを出すための仕立方注意

① 布地の選択

ドレープ性の良い布地を選ぶ。但しレーヨンのものは、ドレープ性に優れているが、一般にへたりが早いものが多いので、選択の際に充分注

意をする必要がある。

② ひだのとり方

a ひだの種類

- | | 布地倍率 |
|----------|-----------------|
| • 二つひだ | (2 倍) |
| • 三つひだ | (2.5 倍 ~ 3 倍) |
| • 箱ひだ | (2.5 倍 ~ 3 倍) |
| • 筒ひだ | (2.5 倍) |
| • ギャザーひだ | (3 ~ 4 倍) |

b ひだの寸法

- | | |
|---------|-------------------|
| • ひだの出 | 25 mm |
| • ひだの高さ | 75 mm ~ 90 mm |
| • ひだの間隔 | 100 mm (薄手カーテン) |
| | 140 mm (厚手カーテン) |

③ 両端の始末と幅つぎについて

カーテン布地の耳がつれていると美しいブリーツが出ない。又カーテン全体もすっきりせず、形くずれする。耳のつれはアイロンで伸ばすか、浅く切りこみを入れてとる。つれのひどいものは耳を切りとる方がよい。両端の耳を切りとったときの折り返しの始末は、三つ折りにしてミシンをかける(返し幅15mm~25mm)。幅つぎの場合は、普通袋縫いや折伏せ縫いをするが、これ等の方法はつれが出やすいので糸の材質(合繊系はつれやすい)やミシンの掛け方に注意する。この縫目のつれは、ウエイトを使用してもとれず効果がない。縫製の際特に気をつけたいことである。

つれを防ぐ幅つぎの方法として、合せ縫いとオーバーロックミシンによる方法がある。但し合せ縫いは洗濯時のほつれの心配や装飾性の点で

なるべくさけた方がよい。

④ 裾の折り返しについて

• 裾の折り返しの効用

- a. カーテンの下の方が重くなりブリーツがよく出る。
- b. カーテン全体のバランスがとれ安定した感じがする。
- c. カーテン丈が狂った時調節出来る。

折り返しの効用 a. bは，ラインウエイト使用の効用と同じであり，このことはウエイト使用のカーテンの場合裾の折り返し幅は少なくてすむことになる。しかし c の問題は，ウエイト使用の効用ではおぎなうことが出来ない。いずれの場合も収縮率の大きいカーテンには折り返し幅をたっぷりとった方がよい。

折り返し幅の寸法は，視覚上の好みの問題もあるが 7 mm から 150 mm 位が適当である。

- まきこみ仕立 7 mm ~ 15 mm
- レース・ケースメント 30 mm ~ 50 mm の三つ折り
- 収縮率がわずかなドレープ 50 mm 位の二つ折り
- レ・ヨン，綿，麻等収縮 150 mm の三つ折り

しやすいドレープ

⑤ 丈について

カーテンの丈が長すぎて床にふれていると美しいブリーツが出ない。ラインウエイト使用のカーテン丈は，床上り 2 cm 位にする。特にウエイトの重量によるカーテン布地の伸びが考慮されるものは床上り 3 cm 位がよい。

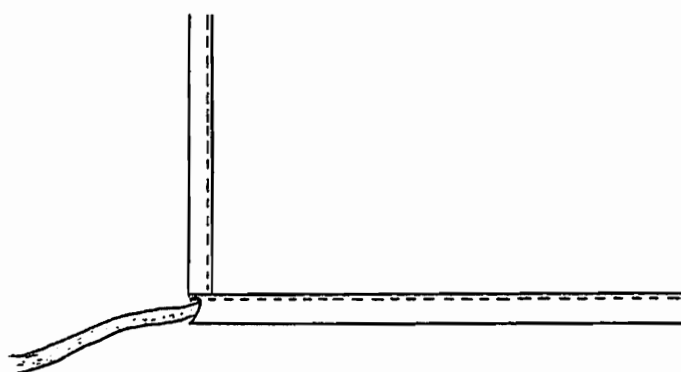
2 ラインウエイト使用の仕立方

カーテンの仕立方は、裾等ウエイトをとりつける個所以外は、ウエイトを使わないカーテンとほとんど同じである。

① まきこみ仕立

ウエイトの太さにより裾の折り返し幅をきめ二つ折り又は三つ折りにして上部にミシンをかける。

ここにカーテンの幅と同寸のウエイトを差通して両端をしっかりとめる。この場合ウエイトが裾の中でつれないよう、



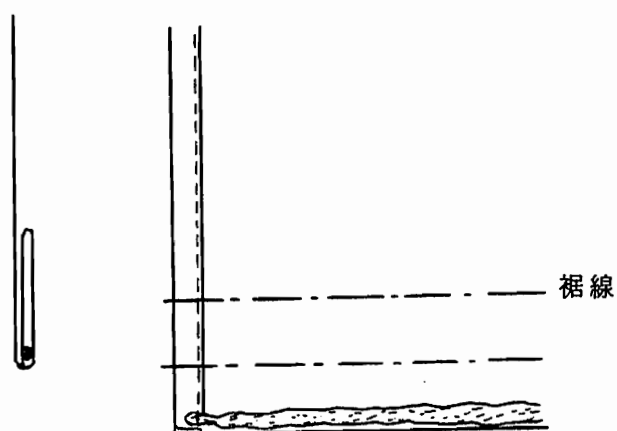
両端の鉛粒を2ヶ抜き糸でとめる。

たるまないよう又よじれないよう注意する。

② 三つ折り仕立

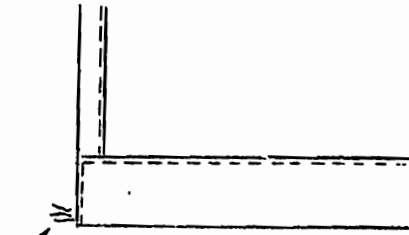
ウエイトをつれない程度少しゆとりをもたせて、カーテン幅に合せ切断し両端の鉛粒を3ヶずつ抜きとり紐の端を折り

裾裁ち切りの所の両端折り返し部分に糸でとめる。幅つきごとに糸で軽く止めて裾を折り返し上部と両端にミシンをかける。



①と同じ方法でウエイトを裾に入れてもよい。この場合ウエイトの両端は折り返さず、布の端より少し外に出し気味にし、カーテン両端の折り返しの裏に軽く糸で止める。

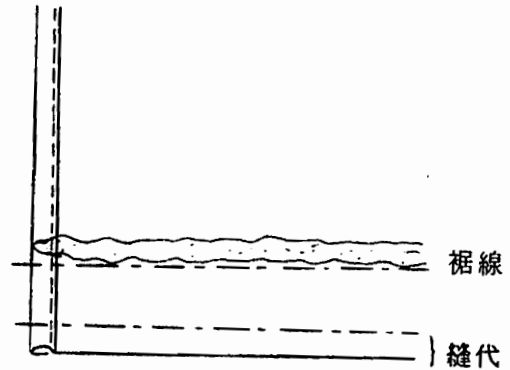
両端のミシンがけの時、
紐も共に縫いこみ、しっ
かり止める。



③ 二つ折り仕立

②と同じようにウエイトを切断し用意する。裾の折り返し線上にウエイトをのせ、両端の折返し
しの所に紐を糸でしっ
かり止めつける。

裾を折り返し、上部と
両端をミシンがけする。



②の項にも記したように、

裾を始末後ウエイトを差入れてもよい。

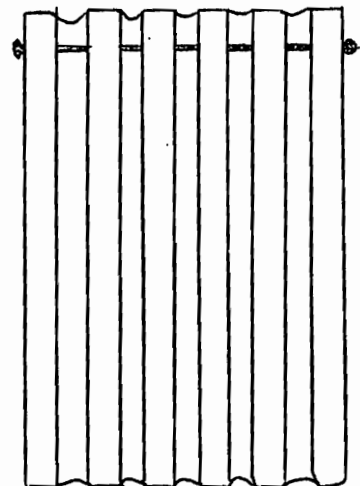
④ アコーディオン仕立

カーテン上部にひだをとらず、ブリーツを大きく波型に出す場合がある。裾の始末、ウエイトの入れ方は、前記のものと同じであり、上部は布のたれを防ぐため芯を入れ三つ折りにしてミシンがけする。吊る方法として二通りある。

a. 鉄パイプ又はローレット使用のもの。

上端より70mm位入った所に鉄パイプ又はローレットを通しブリーツを出す方法(上部芯を入れる)

ブリーツの山と谷の中間にパイプを通す穴をあけ、ボタンホールステッチ



でかかる。(ここにパイプを通し吊る。)

b. カーテンレール2本使いでアコーディオンブリーツを出す。

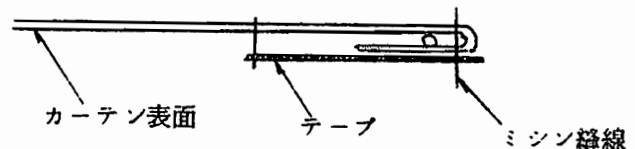
カーテン上端にひるかんを入れる部分をブリーツの山と谷の所に作りひるかんを差込む。(又はひるかんを糸でとりつける)ブリーツの出に合せカーテンレールを二本平行に天井にとりつけ、一方に山の部分のひるかんをかけ、他方に谷の部分のひるかんをかける。

この方法は装飾性をねらったものであるから、裾に入れるウエイトは重目の方がよい。

⑤ トリミングテープ(ボダー)付仕立

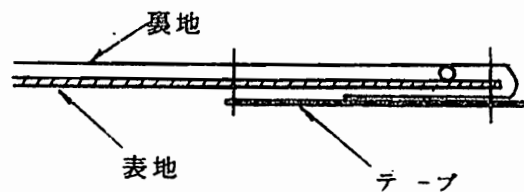
• 裏地のつかない場合

カーテン地を裾線で10~20mm表側に折り返す。この中、裾より5~7mm上の所にウエイトを糸でとりつける。この上にテープをのせ、裾側から先にミシンをかける。



• 裏地がつく場合

カーテン表地や裏側に裾より5~7mm上の部分にウエイトを縫いつける。裏地の上に表地を10mm~20mmずらせてのせ裏地を折り返した部分とウエイトをつけた所を仮止めしておき、その上にテープをつけ後は前項と同じにミシンがけをする。



テープが合わせべりの場合は、裏地と表地の間にウエイトを挟みこんで縫いつけ、後に合わせべりをつける。

- 両開きカーテン中央に縦にトリミングテープをつける場合

裾の折り返しの始末をし、ウエイトを入れた後カーテンの両端を折り返し、その上いっばいにテープを縫いつける。この場合あらかじめテープの幅だけ鉛の粒を抜いて、ウエイトを裾にとりつけておく。

⑥ 無双のひだ付仕立（二枚合せの両面使い）

間仕切りのカーテンには、よく無双仕立をするが、この場合両側にブリーツを美しく出す必要がある。カーテンの両端は合せ袋縫いにし、上端と裾は別々に始末する。ウエイトも同じ重量のものを両方に入れる。上端は各々のひだの部分にひるかんをさし込み一々のヒートンに両方からひるかんをかけ吊すようにする。

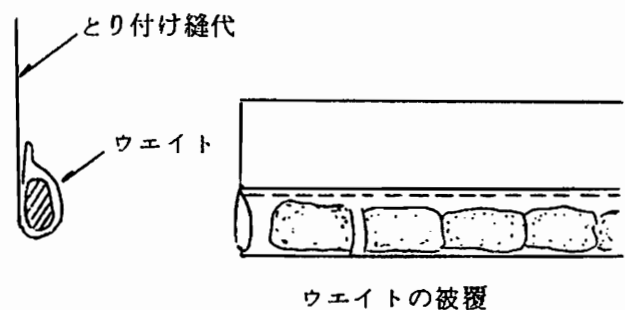
⑦ ブラインド型仕立

試作カーテン№8，9のようにカーテンをパネル式に仕立てることが多い。普通は上下に木の丸棒又は鉄パイプを通してあるが、裾の部分は重いウエイト使用で充分効果がある。又前述のようにこの方が室内空間にあって難がない。

薄手の布地には 100g/m 位のウエイトを、厚手又は地のしっかりしたものには、 150g/m 位が適当である。

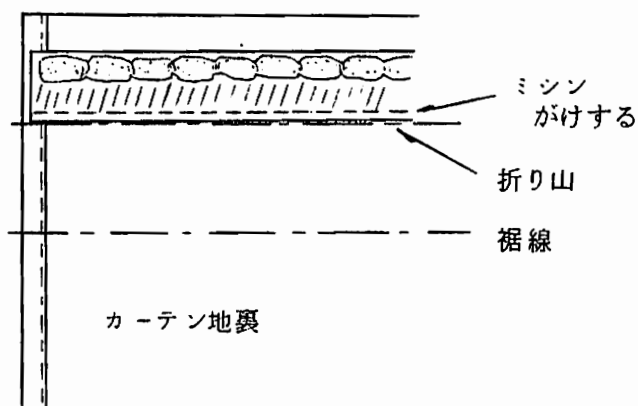
ウエイト入りの仕立方は、裾の始末以外はこれまでの方法と同じである。裾は $30\sim 40\text{mm}$ の折り返し幅をとり三つ折りが、縫代 $10\sim 15\text{mm}$ をつけた二つ折りにする。

薄手の布で上部に縫代のある二つ折り袋状のテ

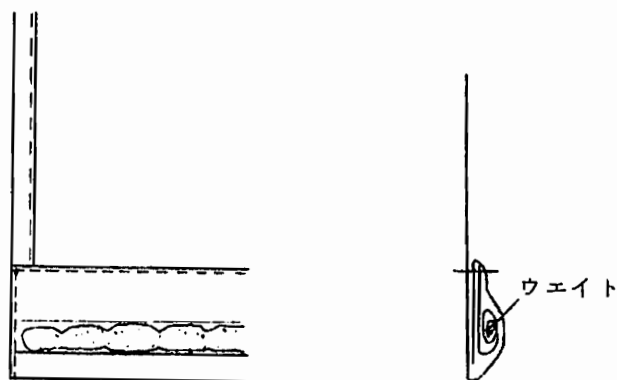


テープを作り，この中にウェイトを通し入れ両端をしっかりと糸で止める。
 テープはカーテン幅 - 4 mm 位に切り，テープの高さはカーテン裾折返し
 幅 - 10 mm 位に揃える。

このテープをカーテンの
 裾の中に吊りこむように
 つける。まずテープ上端を
 裾縫代の内側の折り山線
 に揃え合わせる。上から
 5 mm の所をミシンがけし
 てとめつけ，裾を折り返
 しウェイトが裾線にふれ
 ていないのを確認してか
 ら上部両端を（テープ地
 共に）ミシンがけする。
 ウェイトがつれたりたる



ウェイトとり付

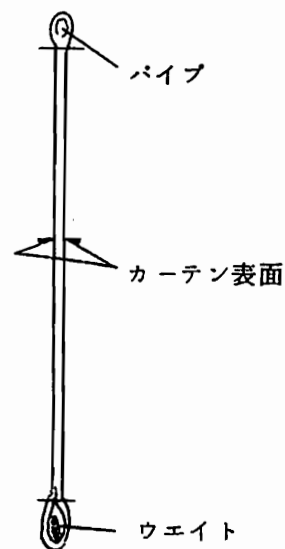


んだりしないよ注意する。この方法は，カーテンにあたりが出るのを
 防ぎ全体に美しい張りをもたせる。

• 無双仕立の場合

ウェイトの被覆は同じ方法をとる。縫代
 を中表にはぎ合せ，はぎ目は開いておく。
 両端の始末をし，はぎ目が上端にくるよ
 うに（この方が裾線がきれいに出来上る）両
 面表を出して重ねておく。

上部はパイプ又は木棒が入る程度の縫代



をとり袋縫いにする。裾は下から30～40mmの所に両面からはさみこむようにウエイト入りテープを入れ、幅を揃え3枚一緒にミシンをかけてとめる。この場合もウエイトが宙に浮くような状態にする。裾の両端は手縫又はミシンでとめておく。(カーテンの両端はとめずにおく。)

• 間仕切りとして幅の広い場合

裾の仕立方は同じであるが、カーテンは両端を袋縫いにして両面をとめる。上部はひだ無しカーテンと同じに仕立てひるかんをつけ、II.2.⑥の項同様1ケのヒートンに両方からひるかんをかけ吊す。ウエイトはカーテン生地の種類と全体の幅によって適正な重量を選ぶ。

⑧ ローラーシェードの裾

ローラーシェードの裾の重りに入れる場合は⑦の場合同様に仕立てる。ひもやつまみは裾縫い目(裏側)の所につける。

ウエイト入りのテープの端は、カーテン裾両端の止めのミシンがけの時必ず一緒に縫いこむよう注意する。カーテン幅が広い時は、ウエイトより木枠使用の方が開閉が楽である。

ロマンシェードの重りには、この鎖状のウエイトは不適當であり、丸棒の方がよい。

⑨ チリチリカーテンには薄く軽い材質が使われることが多いので、裾にラインウエイトを入れるか、フリンジをつけた方が丸みがきれいで出る。ウエイトはウエイト30を使う。幅つぎをし、はぎ目(表側)に飾りテープをつけ終わったら、裾は共布のバイヤステープで始末す。丸みの裾線の心もち外側に、中表にバイヤステープを縫いつけ、裏に返し、ウエイトを入れながらミシンで止めつける。ウエイトが中でたるんだり、つれ

たりしないように気をつける。

チリチリカーテンには全体に安定感を出すために裏側の下の部分にパイプ等の重りをつけるが、重量の重いラインウエイトの使用で十分な効果を上げる。ラインウエイトは、パイプより極く細い形態で同じ重量をもつため、装飾的效果の上でもメリットがある。

ウエイトを共布で作った袋に（上部袋縫い）入れ両端を上からミシンをかけて止め、これをカーテン裾丸味のすぐ上に表から見えないようにとりつけ、両端、はぎ目ごとに糸でしっかりとめつける。ウエイトの重さはカーテンの材質、丈、幅などを考慮してきめる。（ $150\text{g}/\text{m} \sim 300\text{g}/\text{m}$ ）

⑩ 緞 帳

左右両開きのもの、片開きのものには裾に重りを入れる。現在市販の鎖が使われているがラインウエイトの方が形状、重量からいっても効果的である。重さは緞帳の材質、丈によってきめる。（ $100\text{g}/\text{m} \sim 300\text{g}/\text{m}$ ）ウエイトの入れ方はカーテンの場合と同じである。

上下開閉の場合は、比較的丈が短かく間口もあまり広くないものには、ウエイトが使用出来る。この場合裏生地の下の部分に袋縫いをし、この中にウエイトを入れ、両端で表側の折り返しの部分にとめつける。

大きなものには鉄パイプの重りの方が無難である。

ラインウエイト品質テスト（結果）リスト

1. 収 縮

① 洗 濯

a. ウエットクリーニング

J I S 検査法（収縮率試験方法）の内より

D 法（セッケン液法）採用

・条 件

洗 剤 : J I S K 3 3 0 2 (固形洗濯セッケン)

濃 度 : 0.5 %

水 温 : 洗 濯 5 0 ± 1 ° C

すすぎ 5 0 ± 1 ° C

時 間 : 洗 濯 2 0 分間 1 回

すすぎ 2 0 分間 1 回

乾 燥 : 自然乾燥

※ これを 3 回行ない、それぞれにデータをとる。

・テスト結果

※ ウエイトの長さ 2 0 0 mm 同種 5 本

回 数		0	1	2	3
ウエイト種類	No.				
ウエイト 3 0	a	2 0 0 ^{mm}	1 9 9. 5 ^{mm}	1 9 9. 5 ^{mm}	1 9 9. 5 ^{mm}
	b	"	1 9 9. 5	1 9 9. 5	1 9 9. 5
	c	"	2 0 0	2 0 0	2 0 0
	d	"	2 0 0	2 0 0	2 0 0
	e	"	2 0 0	2 0 0	2 0 0

ウエイト種類 \ 回数		0	1	2	3
ウエイト50	No. a	200 ^{mm}	199.5 ^{mm}	200 ^{mm}	200 ^{mm}
	b	"	199	198	200
	c	"	199	200	197
	d	"	198	198	197
	e	"	198	198	198
ウエイト70	No. a	200	200	200	200
	b	"	199.5	199	199
	c	"	199.5	199.5	199.5
	d	"	199	200	200
	e	"	199	199	199

b. ドライクリーニング

• 条件

使用溶剤 : パークロールエチレン

洗浄時間 : 20分間

洗浄温度 : 常温

乾燥時間 : 20分間 (PRECISION DRYING OVEN)

乾燥温度 : 60℃

※上記条件で繰り返し3回行ない、1回毎にデータをとる。

• テスト結果

ウエイト種類 \ 回数		0	1	2	3
ウエイト30		200 ^{mm}	200 ^{mm}	199.5 ^{mm}	199.5 ^{mm}
ウエイト50		"	198	197.5	197
ウエイト70		"	198.5	198	198

② 熱（圧）

昇華堅牢度試験器（サーモテスター100V）使用

• 条件

温度：120℃から210℃の間10℃差10段階

圧時間：15秒間

• 結果

10～5%の縮みをみる。

高温程収縮率大

2. 摩 耗

a. ウェイト自体の摩耗強度

• 条件

抑 圧：225gポンド

エミリーペーパー：600メッシュ

• 結果

ウェイト種類		摩耗強度
ウェイト30	a	30回
	b	30
	c	36
ウェイト50	a	20回
	b	30
	c	28
ウェイト70	a	40回
	b	25
	c	30

b. ウェイトによる各繊維の摩耗強度減少テスト

※各繊維の布地は日本規格協会の標準布による。(但しガラス繊維は市販品)

• 条件

回数 : 3,000回 , 10,000回

エミリーペーパー : 150メッシュ

動き : 前後

動きの高さ : 150mm

• 結果

摩擦回数	3,000				10,000	
繊維種類 \ ウェイト	-	30	50	70	-	70
綿	ごく僅かな毛羽立ち	毛羽立ち	-	毛羽立ち 僅かなすれ	-	-
絹	すれて毛羽立つ	緯糸すり切れ	-	完全にすり切れ	-	-
レーヨン	変化なし	緯糸少しすり切れ	緯糸すり切れ	緯糸すり切れ	ごく僅かなすれ	緯糸すり切れ
アクリル	毛ばたつ位のすれ	毛羽立つ位のすれ	毛羽立ちとすれ	ひどい毛羽立ち	毛ば立つ位のすれ	経糸すり切れ
ポリエステル	ごく僅かなすれ	経糸ごく僅かすり切れ	経糸ごく僅か切れ	経糸少しすり切れ	ごく僅かなすれ	経糸僅かにすり切れ
ガラス繊維	僅かな毛羽立ち	毛羽立ち僅かに繊維切れ	毛羽立ち繊維切れ	毛羽立ち表面繊維切れ	-	-

3. 強 度

糸強伸度試験機によるもの

• 条 件

室 温 : 20 °C

※ 状態の異なるウエイトを各々に3本ずつテストする。

単位 Kg

ウエイトの状態 ウエイト種類		D法1回後	D法2回後	ドライ クリーニング3回
ウエイト30	28	26	28	27
	26	25	25	30
	29	28	23	29
ウエイト50	29	25	25	28
	24	27	26	27
	28	26	26	28
ウエイト70	29	31	27	29
	27	33	30	31
	28	27	32	31

Ⅲ ラインウエイト品質テスト及びカーテンにおよぼす影響

1. 収 縮

① 洗 濯

a. ウエットクリーニング

テストの結果クリーニングではごく僅かしか収縮しない。又、クリーニング1回と3回の数値にほとんど変りがない。

ウエイト30 ほとんど収縮しない

ウエイト 50 1%以下の収縮

ウエイト 70 0.5%以下の収縮

この場合の収縮率の差は、組紐の状態と関係してくる。テスト用の組紐の状態は、ウエイト 30，ウエイト 70 は少し固すぎるもの、ウエイト 50 ゆるすぎるものであった。

b. ドライクリーニング

ドライクリーニングのさいも収縮率のごく僅かである。

ウエイト 30 ごく僅か

ウエイト 50 1.5%以下の収縮

ウエイト 70 1%以下の収縮

ウエイトの種類による収縮率の差は組紐の状態による結果と思われる。

組紐があまり固くても鉛粒が抜きにくく使いにくいので収縮率を 0 にすることは出来ない。カーテンにラインウエイトをとりつける時 2%位の予裕をもたせれば問題はない。

② 熱（圧）

ポリエステル使用のため高熱によって収縮する。

高熱のアイロンをウエイトの上から強くあてないように注意する。

2. 摩 耗

a. ウエイト自体の摩耗強度

テストの結果組紐が固い方が摩耗に強い。

b. ウエイトによる各繊維の摩耗強度減少テスト

使用した布地は日本規格協会の標準布であるため、ごく薄手のもので

ある。実際のカーテン地の方が摩耗強度は大きいと思われる。但し糸のよりのあまい，組織の荒いケースメント等は，このテスト結果より摩耗が激しいと思われる。このような場合，カーテンの裾は床にふれないよう仕立ての際に注意する。

特に摩擦に弱い繊維のものは，ウエイトを入れると摩耗がはげしい。ポリエステル等摩擦に強い場合は，それ程大きな変化はでない。

3. 強 度

テストはウエイトのとりつけ方によって数値に差が出た。

実際の強度はテスト結果より大きいと思われる。

この場合も，組紐がゆるいと強度は弱い。

クリーニングによる強度の減少はまったくなくテストでは僅かながら強くなっている。

4. 重量によるカーテンの伸び

試作カーテン吊り込みの期間が短いので正確なことは言えないが，ウエイト70位迄の重量ではカーテンに大きな影響を与えるとは思われない。

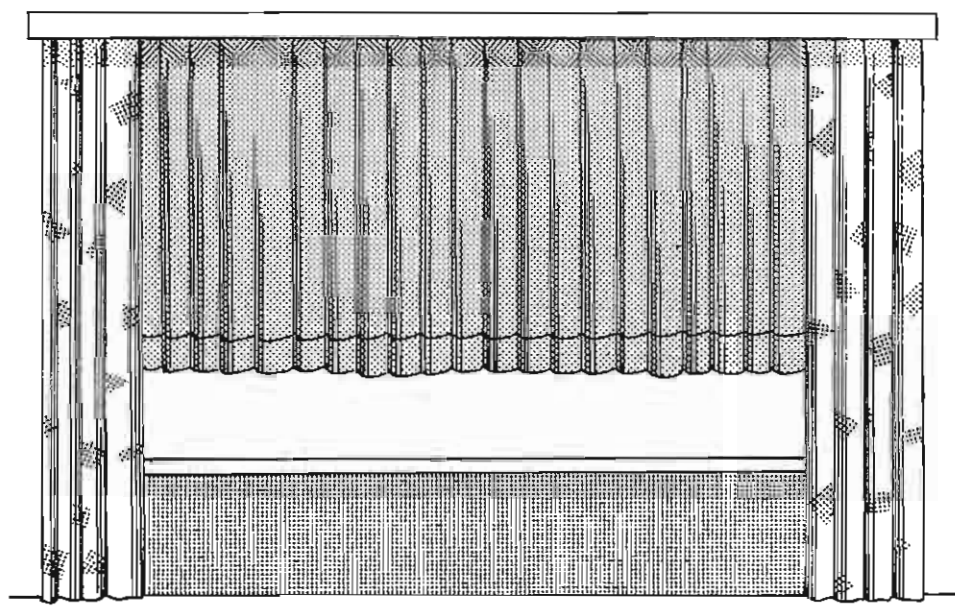
レヨン100%のものにいくらか伸びがみられる。

カーテンの伸びは繊維の性質，湿気，乾燥，冷房，暖房，埃り等が大きく影響する。これ等が重なり，ウエイト使用に相乗効果となったとき著しい伸びがみられると考えられる。

以 上

カーテン用ウエイト

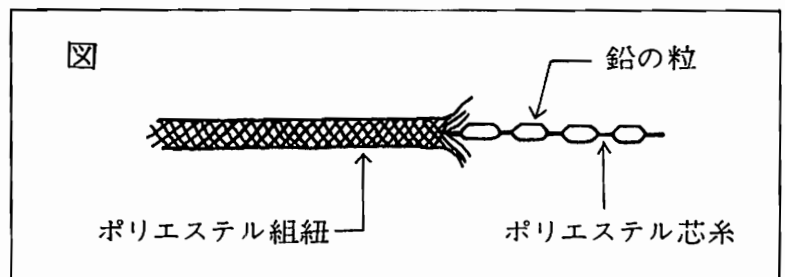
(カーテンをすっきりと、より美しく演出する)
(線状カーテン用ウエイトの解説)



カーテン用ウエイト

お部屋の雰囲気を生き生きさせる美しいプリーツ

カーテンの裾に線状の重り（ウエイト）を入れて、生地
のしわをなくし、すっきりとした仕上がりと装飾性を強調
することは、欧米に於て一般的であります。国内に於
ても最近はかなり普及してきました。カーテン用ウエイ
トは柔軟な紐状の重りです。連続した鉛の粒をポリエ
ステル組紐で被覆して、純白で美しい外観、均一な重量、
さらに適度のループ性をもたせてあります。その形状は
次の図の通りです。



- カーテン用ウエイトの特徴
- 裾に適切な重みがかかってプリーツを美しく表現します。
 - カーテンの裾に忠実にそうなので、すぐれた装飾効果を示します。
 - 均質な線状の重りであるため、外からウエイトが見えません。
 - ウエイトはカーテンの風による裾のまくれを少なくします。
 - 水洗やドライクリーニングによる伸縮はほとんどありません。
 - ウエイトは中心糸で鉛粒がつながっているために端部の鉛がほつれることはありません。
 - レース、ケースメント、ドレープ、緞張等のあらゆるカーテンに使用して効果があります。

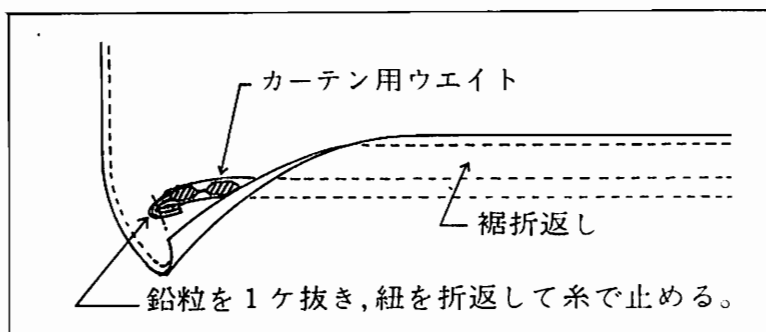
種類と主な用途 ウエイトの種類と、主な用途は次の通りです。

品名	1メートル当りの重量	主な用途
ウエイト 30	30g	レース、ケースメント
〃 50	50g	レース、ケースメント、ドレープ
〃 70	70g	ケースメント、ドレープ、暗幕

○この他14g/m, 20g/m, 100g/m, 150g/m, 200g/mの各重量を準備してあります。

○なるべく重目のウエイトを使用した方が効果的です。

- ウエイトのとりつけ方法**
- カーテンの裾の折返しを5～15cmとります。返し幅はウエイトを入れない場合よりも短かくできます。
 - ウエイトを裾幅に切断し、鉛り粒を1ヶ抜きとり、その部分を折返して裾の端に糸で止めます。他端を裾の折返しの中に通し、裾とウエイトの長さを合わせ同様に止めます。
 - ウエイトが裾の中でつれないよう、たるまないよう又よじれないように注意して下さい。
 - カーテン上部の縫製は三ツひだ又は箱ひだとして十分な生地倍率をとった方がより効果的です。



カーテン用ウエイトについての御質問，御問合せは
下記へ御連絡下さい。

